

2023年5月12日  
 千代田化工建設株式会社  
 総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション

**2023年3月期決算説明会質疑応答要旨  
 (2023年5月9日開催)**

2023年5月9日に開催致しました、2023年3月期 決算説明会(オンライン)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

#	質問	回答
1	【完成工事高】 完成工事高が通期予想比未達の理由は。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシア・ウクライナ情勢の影響を受けた輸送費の高騰は落ち着きを見せているとはいえ、依然高水準にあり、ボラティリティの高い状況が続いている。 この対応として、一部案件で、納期の範囲内で輸送スケジュールを調整する等、資材調達の最適化を行ったことに伴い、コスト支出のタイミングが後倒しとなり、会計上(工事進行基準)の進捗率が予想比でビハインドしたものの。</li> <li>2023年3月期の完成工事高は通期予想を下回るものの、2024年3月期に期ズレとなる。プロジェクトを納期通りに遂行しながら、EPC 遂行管理をした結果であり、実際の工事は予定通り進捗している。</li> <li>カタール LNG NFE、インドネシア銅製錬などの主要大型案件は順調に進行している。</li> </ul>
2	【受注予想】 2024年3月期受注予想3,000億円の内訳は。 カタール NFS LNG の受注見通しはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内約 2,000 億円、海外とグループ会社で 1,000 億円を予想している。</li> <li>国内は、政府の支援もあり、脱炭素やライフサイエンス事業等への投資が活発であり、中規模案件が主体となるが着実に積み上げていく。</li> <li>カタール NFS LNG は入札中であるが、以下の理由から</li> </ul>

#	質問	回答
		<p>受注予想では慎重にみている。</p> <p>A) 遂行中のカタール NFE LNG ではコロナ禍やロシア・ウクライナ情勢といったフォースマジュール的な事象に起因するリスクを認識した。カタール NFS LNG では様々なリスクを慎重に見極めており、リスクに見合った適切なリターンの観点から、非常に厳しく見ていること。</p> <p>B) 当社の成長戦略である事業ポートフォリオ革新の加速に向けて、新規事業の開発・創出への経営資源の投入を強化していくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も、案件毎にリスク・リターンのバランスを十分検証の上、選別しながら受注していく。</li> </ul>
3	<p><b>【水素事業】</b> どの程度の金額規模感やスケジュールを考えているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当社の事業機会としては、水素製造・脱水素のプラント建設といった EPC に加えて、当社独自の技術である SPERA 水素™ のライセンス販売や、当社が開発した触媒の販売といったビジネスモデルの展開を検討・遂行している。</li> <li>・ 現在はシンガポール案件をはじめ、様々なフィージビリティスタディなどソフト業務を遂行している。本年度は FEED(基本設計)に進むステージとなり、来年度以降 EPC に進んでいく。</li> <li>・ 初期段階では、水素製造・脱水素のプラント建設 EPC は数百億円、触媒・ライセンス事業は何十億円という金額的規模感を見込んでいる。</li> </ul>
4	<p><b>【事業環境】</b> LNG の事業環境の変化をどのように見ているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロシア・ウクライナ情勢により、ヨーロッパで天然ガスの投資意欲は高まっており、アジアでも需要が伸びていくだろうという見方をしている。</li> <li>・ 当社は、LNG 案件について、コントラクターの立場で参画の問い合わせ・相談を受けている。</li> </ul>

#	質問	回答
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ LNG は 2050 年ネットゼロに向けたトランジションエネルギーとして重要な役割を果たしていく。一方で、LNG プラント建設は数年かかり、大型案件でファイナンス組成には 20 年間といった長期オフテイク契約が前提となるため、事業者、コントラクターともリスクを十分見極めた慎重な判断が求められる。</li> <li>・ この中で、今後の LNG 案件の大きな開発コンセプトである Cleaner LNG (CCS 設備併設等により CO<sub>2</sub> 排出量削減) の開発に寄与していく。そこに当社のビジネスチャンスもあると見ている。</li> </ul>
5	<b>【配当方針】</b> 復配はどれくらいの時間軸で考えているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期経営計画の確実な遂行により着実に利益を上げ、財務体質を強化し、その延長上であるべく早期の復配を目指す。</li> </ul>

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。